



< 一秒の言葉 >

今回の「至誠」は、特に子どもたちに向けて書いています。保護者の方だけでなく、お子様も読んでもらえればと思います。

松崎小学校の「チャレンジ目標」の一つに「言葉」があります。みなさんは、友達に「やさしい言葉」をかけることができているでしょうか。時々、悲しくなるような言葉が聞こえてくることもあります。うれしくなるような言葉も聞こえてきます。

みなさんは、「短い言葉」と言えば、どんな言葉を思いかべますか。

「おはよう」「さようなら」「ごめんね」「ありがとう」「またね」「だいじょうぶ」・・・。

どれもみな短い言葉です。これらの短い言葉には、いろいろな思いがこめられていますね。

「ありがとう」と言った人は、「あなたがやってくれたおかげで助かったよ。」「うれしかったよ。」と感謝の気持ちをもつでしょう。言われた人は、「よかった。喜んでもらえた。」どちらも心があたたかく、うれしくなります。

「ごめんね」を言った人は、「あなたを悲しませてしまったね。」「悪かったね。」という自分を反省し、二度と「ごめんね」を言わないようにしようと思うかもしれません。言われた人は、「悪気はなかったのかもしれないけど、悲しかったよ。」「もうやらないでね。」と思うでしょう。

たった一言のこの短い言葉から、人はいろいろな気持ちになります。

私は、子どもたちに、友達の心があたたかくなる言葉をどんどん使ってほしいと思います。そして、友達が悲しくなる、心が傷つくような言葉は絶対に使わない人になってほしいと願います。あたたかい言葉は人と人を近づけますが、悲しい言葉は、人と人をはなしていただけなのです。今は友達がまわりにたくさんいます。自分を助けてくれる人もたくさんいます。でも悲しい言葉を使い続けていると、いつのまにか自分のまわりには、誰もいなくなってしまうかもしれません。

人は、たくさんの人とかかわりながら、人として生きていくのです。そして、そこには人として成長があるのです。これから、一人でも多くの友達をつくり、たくさんの方々と出会って、人として生きていくためにも、この短い「一秒の言葉」を大事にしてください。

最後に「小泉吉宏さん※」が書かれた詩「一秒の言葉」を紹介します。

一秒の言葉

「はじめまして」 この一秒ほどの短い言葉に一生のときめきを感じることもある
「ありがとう」 この一秒ほどの短い言葉に人のやさしさを知ることがある
「がんばって」 この一秒ほどの短い言葉で勇気がよみがえってくることもある
「おめでとう」 この一秒ほどの短い言葉でしあわせにあふれることもある
「ごめんなさい」 この一秒ほどの短い言葉に人の弱さを見ることがある
「さようなら」 この一秒ほどの短い言葉が一生の別れになる時がある
一秒に喜び 一秒に泣く

※ 小泉 吉宏は、日本の漫画家、絵本作家。ただ、漫画家としては珍しくコピーライターの経験がある。最近、結婚式のスピーチや、道徳の教科書に載ったりするなどで有名になった、『一秒の言葉』の詩の作者でもある。(出典：Wikipedia)